

## 世帯と人口

(2月1日現在)

世帯	42,994	(+66)
人口	117,442人	(+95)
男	60,228人	(+70)
女	57,214人	(+25)

# えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。



## 21世紀へ前進する海老名⑭

## 魔法の虫が害虫を倒す



パンカーブラントを手に石川さん



オニシツツヤコバチ

農家が温室で野菜・果物などを育てるとき、作物を荒らす害虫が悩みの種。今まで農薬を使って駆除してきましたが、最近では、なるべく農薬を使わない自然なもの食べたいという意識が高まり、農薬を減らしたり、使わない農家が増えてきています。石川栄一さん(本郷・55歳)は、害虫を天敵の虫に退治させるという方法を国に先駆けて実践しています。

### 全国に先駆け天敵利用の農業

石川さんが、天敵を使った農業を始めたのは9年前。トマトの木につく、オニシツツヤコナジラミという害虫に、オニシツツヤコバチ(体長約1ミリ)が寄生することを利用し、茎にマミーカード(オニシツツヤコバチのさなぎ集団が付着している)と呼ばれる白い紙をつけて効果を確かめました。しかし、この虫を使った方法は、日本で初めての試みで、教科書もなく初めの3年間は失敗の連続でした。研究熱心な石川さんは、適正な温度や湿度、カードをつける時期、天敵の量、カードをつける時期などを調査し、虫めがねを片手に虫の生態なども調べて失敗の原因をつきとめ、4年目からは成功し、毎年研究しながら試み続けています。

天敵を使用した農業は、ヨーロッパでは20年以上も前から普及していますが、日本ではまだ歴史が浅く始まつたばかり。この方法の利点として、農薬を使用しない、効果が長く続く、消費者に喜ばれる、作業時間が短くなるなどがありますが、まだ研究途上、効果がゆっくり現れることがあります。そこで、国内で使用許可されている天敵が少ないなど、まだ普及には時間がかかりそうなのが現状です。

温室での天敵も、作物の害虫を全滅させるわけではありません。全滅するとえさが無くなり自分が死んでしまいます。温室内の天敵も、作物の害虫を全滅させてしまうからです。このことに目をつけた石川さんは、パンカーブラントと呼ばれ、温室内に作物と違う種類の鉢植え植物・天敵・害虫を入れる試みをしています。使う害虫は、作物にはつかず、鉢植え植物のみに害虫がいる天敵は、作物の害虫を全滅させても、鉢植えに害虫がいるので自分が死ぬことはなく、作物の保護に効果があります。

「植物や虫の生態は人間が考へている以上に深いと思います。人間が作り上げた農作物は、人間が守つていかなければなりません。そのためにも、害虫や天敵をもつて研究して、消費者に安全なものを提供していきたい」と石川さんは、続きます。

# はいかい高齢者早期発見システム

4月1日から始動 みなさんの協力を

地元の特別養護老人ホームの協力をにより、24時間体制で高齢者が預かることが可能になります。

湘南エリア、大和、綾瀬、津久井などすでに実施されている地域との連携をはじめ近い将来は、県内全域で整備され、これが予想され、よりいつもの保護体制の充実が期待されています。

4月1日には、SOSネットワークと調整し、ネットワークシステムの立ち上げを検討してきま

ました。

このシステムは、万に備え、

氏名を住所などを、事前に登録してもらい、実際行方不明になつた時に関係機関への依頼を迅速に、早期発見につながるようになります。また、はいかいのおおのが、実際保護された場合には、早期にこのシステムで

保護された高齢者の半数以上です。

痴呆症であることが多いです。

また、はいかいが始まる

と、いつよりも目が離せない状況と

なり、介護している家族の不安

も少なく工事が始まること

から、全面閉鎖されることになりま

す。あわせて南北の道路も閉鎖さ

れます。(下図参照)。

また、はいかいのおおのが、

よくな精神的な疲労を互いに軽

市では4月1日から、はいかい高齢者「SOSネットワーク」を実施します。これは、年々増え続ける痴呆症などが原因で行方が分からなくなってしまった高齢者を、近隣市町村と協力体制をとり、早期発見と保護することを目的としたシステムです。今回は、その概要についてお伝えします。

## 24時間体制で保護可能

高齢化社会が進行していくことで、座間警察署内で保護した高齢者増えると予想されます。去年のそれだけ高齢者の思ひぬ事故が増えると予想されます。去年の

座間警察署内で保護した高齢者までにはいたしました。市ではこ

れまでにはいたしました。

こうした背景の中、市ではこ

れまでにはいたしました。

まことに、はいかい高齢者事故が

増えたと予想されます。去年の

座間警察署内で保護した高齢者までにはいたしました。

まことに、はいかい高齢者事故が

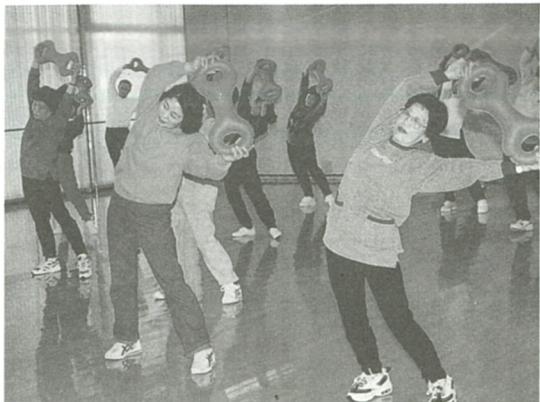






## まんまる赤ちゃん

このコーナーに掲載を希望する方は…  
電話で広報広聴課（内271）に申し込んでください。  
ただし、申し込み時点で1歳未満の赤ちゃんに限ります。  
なお、申込数が多く掲載できない場合もあります。



## △ベルを使って気分転換

3種類の道具（ボール、ベル、ペレーター）を使う「3B体操教室」が2月、総合体育館で行なわれ、参加した26人から「気軽に出来るし、よい気分転換」の声。

## ▶全員が名コツクに

高齢の男性を対象とした「男の料理教室」。32人の受講者は塩分ひかめの料理づくりに挑戦。回を重ね包丁さばきも上達し、終了時には全員が名コツクになる気配が…。



## フォトピックス

## ◀34チームが健脚競う

2月13日、市町村対抗ながら駆走大会が行われ、小田原市から相模湖町までの70・2\*・10区間を34チームが健脚を競いました。海老名市は3時間54分48秒で14位の成績。



## ▶小学校にヘリ着陸



2月7日、医師が同乗して救急患者を治療しながら病院へ運ぶドクターが、訓練のために中新田小学校に着陸。市の救急隊員らは患者の搬送方法を真剣に聞き入っていました。

1面の石川さん。天敵をくみがくみが、小・中学生向きの本になつてゐるそうです。使つた新しい農業への取り組みや2度失敗したからと、1度は光高さん（☎233・2732）まで連絡を。

**編集後記**

いつめげずに、どんどん新しいことに挑戦していく。石川さんの意欲は、見習わなければいけないと思いま

高齢者趣味の教室  
「写真」のOB会

## 写遊会



コミセンに集まった写遊会のメンバー

「写遊会のモットーは仲間作りです。親しい仲間をたくさん作り、これから老後を楽しく過ごしていきたいと思います。そのきっかけが写真なんですね」と話す光高会長。撮影会にも必ず当社出かけ、昼食時には輪になつて親睦を深めているほか、次の撮影会も会員間の話し合いで決めるなど、会員同士が話す機会を重要視しています。

会員たちの中には、県や市などの写真コンクールで賞を果たしている人もいるように、個々の写真技術も年々上達してきました。反省検討会で選ばれる写真も結成時は数少ない作品に集中していたものが、最近では、多くの作品に異が分かれるようになりました。今後も傑作を撮り続けながら会のモットーである「仲間作り」を進めていきたいという写遊会。写真教室OB会開催作りに参加してみたいという方を募集中。入会した仲間作りに参加してみたいという方を募集中。入会した

## 写真を通して仲間作り

市で行っている、高齢者趣味の教室「写真」の平成9年実施の受講者たちが結成した、写遊会（光高会長、会員12人）。風景や花など、さまざまな被写体で傑作を撮り続けています。

会の結成は、趣味の教室終了直後の平成9年5月。主な活動としては、鎌倉や箱根など各地で撮影会を行い、その2週間後にコミセンを使用し反省検討会を行っています。反省検討会では、撮影会で撮った写真を1人2枚貼り出し、会員の投票で上手と思われる写真を選び批評し合っています。ほかにも、市民文化祭展示部門での作品の展出や、平成10年5月に市民ギャラリーで行われた、高齢者趣味の教室「写真」の各年度OB会全体の写真展にも出展しました。